日本天文学会　早川幸男基金による渡航報告書

Spectroscopic and Imaging Observations of High-z Galaxies in the COSMOS Field

渡航先―アメリカ合衆国
期　間―2010年1月13日–24日

2010年1月15日から19日までの4日間と，20日から21日までの2日間，Keck望遠鏡を用いた分光観測とすばる望遠鏡を用いた撮像観測を行ってきました．2平方度のCosmic Evolution Survey (COSMOS) 領域で高赤方編移銀河の分光とZバンドの撮像観測を行うことが目的です．

この観測はCOSMOSのプロジェクトの一環で，COSMOSの代表者であるNick Scovile氏をはじめとする，COSMOSプロジェクトに参加している海外の共同研究者ら6名が観測に参加しました．すでに会ったことがある研究者がほとんどでしたが，日本からの参加は私のみであったためとても心細い気持ちありました．しかし，共同研究者の方々はとても友好的で緊張気味な私に気軽に声をかけてくださいました． 私自身はKeck望遠鏡を用いた観測を行うのは初めてでなおかつ分光観測の経験もほとんどない状況であったため心配していましたが，共同研究者の方々が丁寧に観測の仕方を教えてくださったため，観測にも徐々に慣れてきてリラックスして観測に臨むことができました．Keckでの観測の最終日には一晩観測を任せていただきました．この観測で，いかにして観測時間のロスを少なくするかを考慮した観測戦略を学ぶことができ，良い経験をすることができました．Keckでの観測を終えすぐに，すばる望遠鏡を用いた観測が控えていたため，ワイミアからヒロに移動し，すばる望遠鏡での撮像観測に備えました．すばる望遠鏡での撮像観測は何度か参加しているのですが，この観測では私と，同じくCOSMOSのメンバーであるカリフォルニア工科大学の大学院生の二人で行うことになり，ちゃんとした観測データが取れるかたいへん責任を感じていました．すばる望遠鏡での撮像観測を行った2日間は， 大きなトラブルもなくスムーズに観測を行うことができました．今回の6日間の観測中は，晴天率が高く，シーイングも良かったため，非常に良いデータを取得することができたと思います．

今回の渡航で観測の技術的なことはもちろんのことですが，コミュニケーションの重要性を再確認することができました．これからも共同研究者らと多くのコミュニケーションを取ることでよりいっそう研究を円滑に進めていきたいと思います．観測中には，研究内容などについてもさまざまなアドバイスをいただくこともできました．今回の観測は私にとって大きな収穫のあった観測となりました．このような貴重な経験ができましたのも，日本天文学会早川基金からの援助があったからこそのことです．このような渡航の機会を与えてくださった早川基金に深く感謝申し上げます．

井手上祐子（愛媛大学大学院理工学研究科）